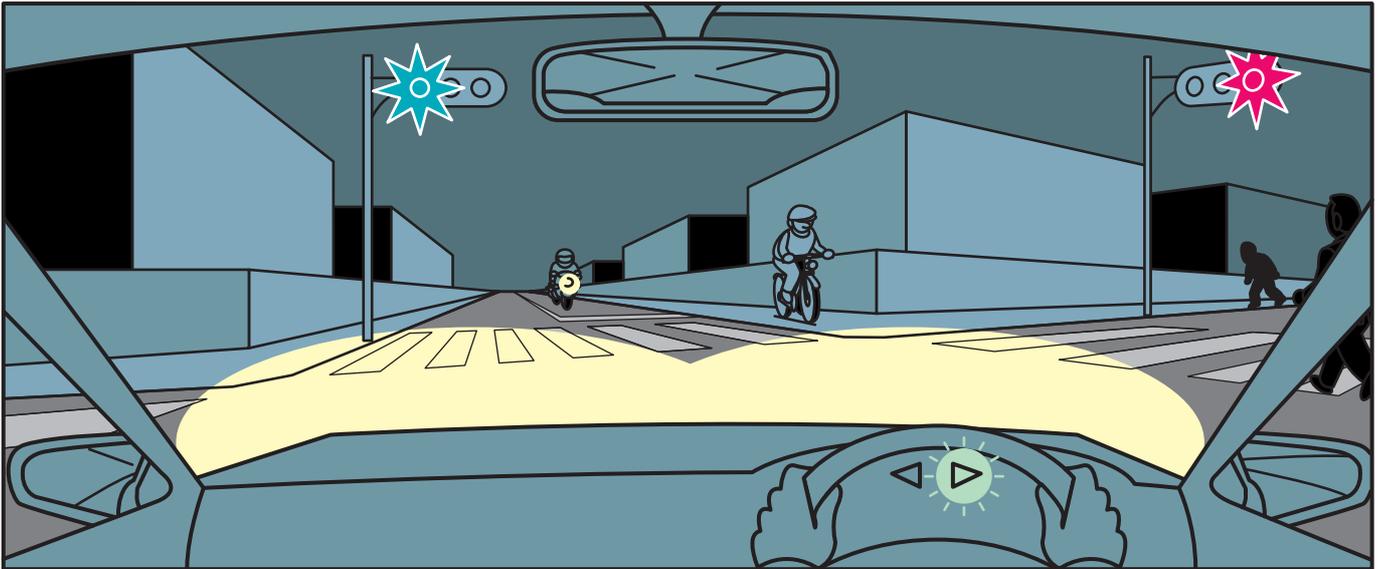


11月の安全運転のポイント 平成26年11月号

夜間の道路にはさまざまな危険が潜んでいます。そこで、運転席から見た交通場面のイラストをもとに、夜間走行時の危険予測運転について考えてみましょう

夜間に交差点を右折しようとしています。この場面にはどのような危険があるでしょうか。



主な危険の内容

この場面での主な危険をあげてみましょう（図1参照）。
対向二輪車が交差点に進入してくる。

「信号が赤に変わる前に交差点を通過してしまおう」と考えた二輪車が速度を上げて接近してくる可能性もあります。

右折先の横断歩道を歩行者が横断してくる。

自車より先に横断を始めた歩行者は、右折してくる自車の存在に気づかない可能性があります。

右前方の歩道から自転車が横断してくる。

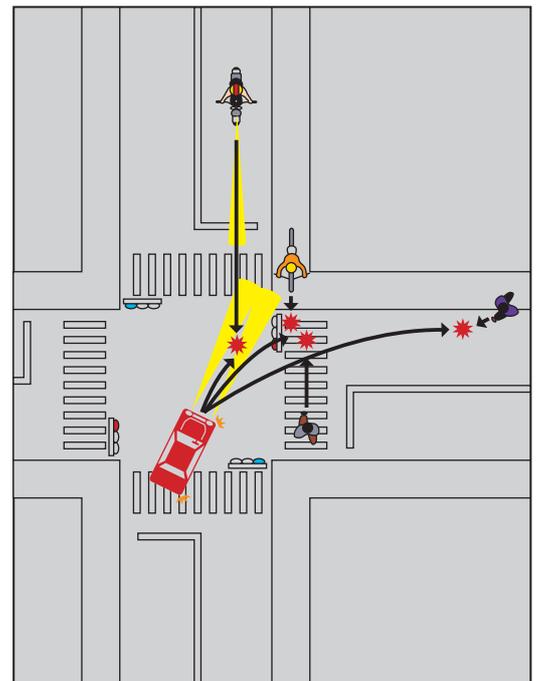
青信号に差しかかった自転車が、自車に気づいても、「車のほうが止まってくれる」と思い、減速せずに横断してくる可能性があります。

右折後、歩行者が道路を横断してくる。

ランニングや散歩など、夜間や早朝に出歩く歩行者が横断歩道外の場所を横断してくる可能性があります。

夜間は、「ヘッドライトが照らさない箇所の危険を見落としやすい」「他車の速度などを判断しづらい」といった危険があることを頭に入れながら運転しましょう。

図1



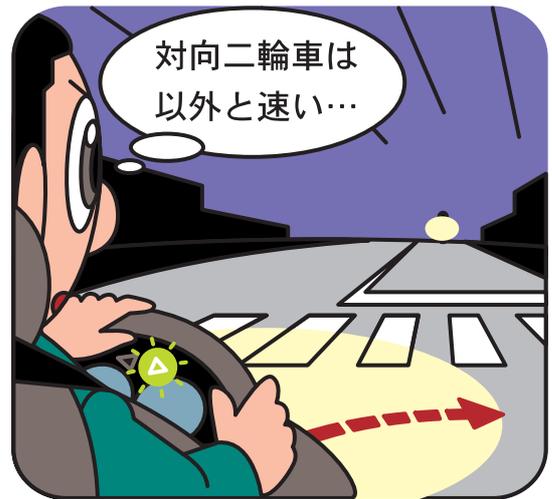


事故を防止するための危険予測のポイント

対向車は予想以上に速い考える

対向車のヘッドライトだけで速度や距離を的確に判断するのは困難です。しかも、夜間是对向車が速度を出していることも多く、予想以上に早く交差点に接近してることがあります。特に対向車が二輪車の場合は、ヘッドライトが一つということもあって、実際よりも速度を遅く感じたり距離を遠くに感じてしまい、自車のほうが先に行けると誤った判断をしがちになります。

交差点右折時に対向車が接近しているときは、一時停止して通過を待ちましょう。

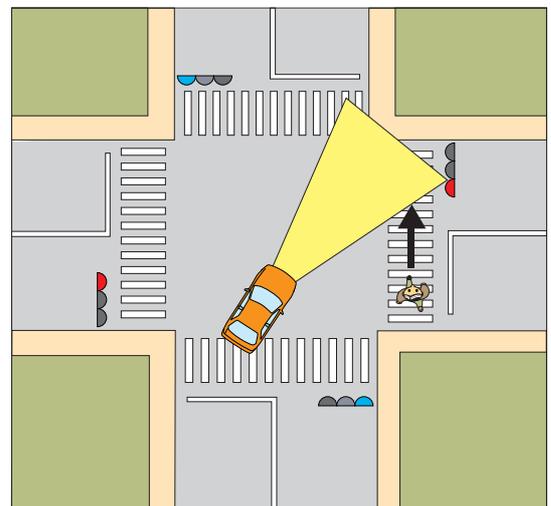


ヘッドライトが照らさない部分に注意する

ヘッドライトは常に進行方向を照らし出すというわけではありません。特に交差点の右折時は、図2のように、横断歩道の右側部分はヘッドライトが照らしません。そのため右側から横断してくる歩行者を見落とししたり、発見が遅れやすくなります。

夜間に交差点を右折するときは、横断歩道の右側にも十分に目を向けて歩行者や自転車の有無を確認しましょう。

図2



歩行者や無灯火の自転車に注意する

夜間は暗いために、歩行者や無灯火の自転車などの発見が遅れやすくなります。また、歩行者のなかでも特に高齢者は、黒っぽい地味な服装をしていることが多いために発見が遅れやすく、直前になってようやく気づくというケースも少なくありません。

夜間、道路端に動く気配を感じたときは、歩行者や無灯火の自転車かもしれないと考えて、その動きに十分注意するとともにスピードを落とすなど慎重な運転を心がけましょう。

状況に応じてヘッドライトを切り替えよう

ヘッドライトは上向きにするのが原則ですが、交通量の多い道路を走行するときや対向車とすれ違うときは下向きにするなど、状況に応じてヘッドライトを切り替えて走行しましょう。



「ご相談・お申込先」